

トイ状なので、内面登攀の要領にて登る。次の3.5mは右岸を登り、つづく小滝も軽く越える。右岸より小沢が合流した所で小休止。

しばらくは何もない所を歩く。やがて兩岸が岸壁となった1.5mの小滝に続いて、いくつかの小さなナメを越えると、また滝が連続するようになる。まずはいずれも1m未満だが、5個連続する。そして2m, 8m, 3mと次々にパスする。右岸より小沢が2本合流する。この先も滝とナメが続く。途中昼食。このあたりシドキ(モミジガサ)がたくさんある。水も少なくなってきた。沢も最後は滝状のナメとなって、尾根近く、水が無くなるまで続く。12:00やぶこぎに入る。15分程で尾根に出た。

(記)

出合(8:40)——沢終了(12:00)——尾根(12:15)

ワサビ沢 1982年8月15日
横川支流無名沢 L

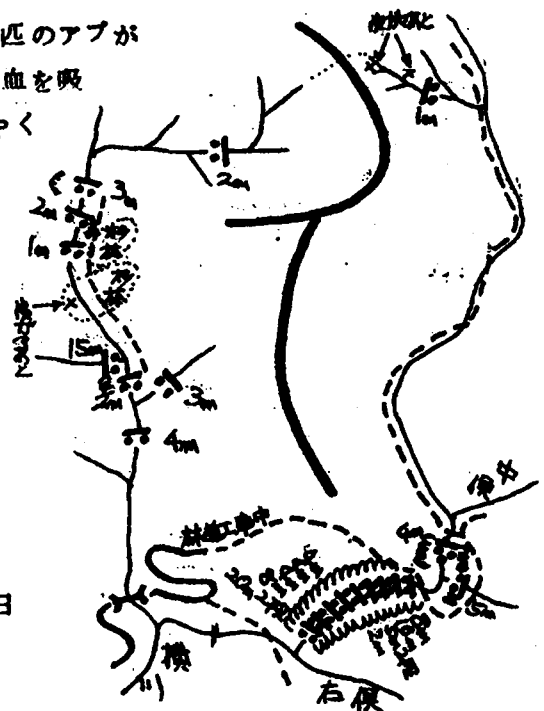
林道工事のため出合は様相が一変していた。くずされた土砂が沢をうずめてしまっている。何と雑な林道の造り方であろうか。緑の番人を自認する営林署であるが、我々の目からみれば緑の破壊者の1人である。

沢に入るととたんにアブの襲撃。数十匹のアブがむらがってきて、滝の上からでも平気で血を吸いにかかる。50匹ほど殺したら、ようやく静かになった。

平凡な沢である。4mの滝が出てきた時には、これならと期待させたのだが、あとが続かない。ダラダラと登り、いつのまにか源頭の湿原に付いていた。

(記)

出合(8:15)——終了(10:15)



1982年8月15日
横川左俣(下降) L

10時40分下降開始。急な斜面をブツシュ

につかまりながら沢まで降りる。炭焼き釜あとをみながら、細い流れについて下る。11時10分、横川左俣本流出合。左俣本流も極めて平凡。標高差のない所を右に左に屈曲しながら流れているだけ。そんな流れが中俣出合まで続く。

中俣出合で昼食。この下に滞があることは、この前中俣を下降した時に確かめである。あの時はすぐ踏跡にあがってしまったが、今日は最後まで沢を降りることにしている。

まずは4mの滝。右岸を慎重にクライミングダウン。ところが大きな釜に行き止まる。無理にへつろうとして、2人ともドボン。胸まで水につかってしまった。続いて8mの滝。左岸を下る。花崗岩の滝で、ホールドは豊富。節理面に従って岩が割れ、格好のホールド、スタンスができています。続く10mは左岸の今は水の流れしていない、かつての河道を下る。かつての河道といっても2段の滝の形になっている。しばらくは小さな滝ばかりとなる。空模様がおかしくなってきた。よりによって暗いゴルジュ帯の中。写真を撮ろうとしたが、しほり開放で1/15秒でしかシャッターがきれない有様。舞台装置満点で、このゴルジュ帯にはすごみさえ感じられてきた。小滝をいくつか越えて8mの滝。これはちょっと下れない。左岸を捲く。その下の20m 2段の滝も左岸を捲く。登ることはできるかもしれない。ゴルジュ帯はこれで終了。すぐ右俣が合流する。 (記)

下降開始(10:40)——左俣本流(11:10)——中俣出合(11:25)——
右俣出合(13:00)